



No.298

釧路教育研究所

令和2年 2月

研究協力校 標茶町立標茶小学校の実践

はじめに

本校の学校課題は「自律し、協働し、拓く子どもの育成」であり、今年度はこれらの実現に向けて児童一人一人が、目の前の課題と向き合い、考え、伝え合い、高め合うことで、新たな資質・能力を身に付け、豊かで実りある成果をもたらすことを期待して研究を進めている。

昨年度までは、算数科・道徳科において研究を進め、どの学級も『共通の基本学習スタイル』を意識しながら問題解決的な学習に取り組み、児童一人一人が「わかった!」「できた!」という学ぶ喜びを実感できる授業づくりを目指してきた。今年度からは、昨年度までの成果と課題を生かしながら、研究教科を国語科にし研究を進めている。

主 題：自ら学び、心豊かに未来を切り拓く児童の育成
副主題：伝え合い、高め合う授業を通して

研究内容

本研究は、目指す子ども像の実現につなげるために、『■授業作りにつながる研修』『◇児童一人一人の心を育む研修』『●学級の土台づくりにつながる研修』の3つの分野に分けて研究を進めている。授業づくりのみの研修にとどまらず、教育活動全体においての研修を大切にし、3つの分野の関わりを意識しながら研修を進め、その効果と課題について検討しながら、より良い方法を追究している。

【研究内容①活用力につながる単元構成の工夫】

- 育みたい力を明確にした授業づくり
- 考えを伝え合い高め合う活動の工夫

【研究内容②言語能力を育む活動の充実】

- 書く力を育て、豊かな心を育むノート指導の工夫
- 学習用語の系統性

【確かな学力定着に向けての取り組み～各チーム（分掌）と連携して～】

- 問題解決する喜びを実感できる指導
- 算数科・習熟度別少人数指導の充実
- 分析結果を活用した授業改善
- 学習習慣の定着（他分野にも関連）
- 学習規律の定着・学級の土台作り
- ◇道徳授業・評価の充実
- ◇心を育む読書指導

今年度の成果と課題

- 授業者が本単元で児童にどんな力をつけたいのか、またそのためにどのような活動を位置づけるのか、単元終了後の児童の姿をイメージして指導計画を作成することの大切さが共有できた。
- 各学年で伝え合うための工夫・活動を考え実践しようとしているのは良い。伝え合った内容を用いて、更に高め合うためには、交流の視点を明確にしつつ、交流を継続的に行う必要があると感じた。伝え合うに留まらず高め合うにシフトできるような指導が課題となる。
- 学習用語について教師全体で意識することが大切。そうすることで指示等も通りやすくなり、学力や理解力が高まる。





学教研標茶大会

《成果と課題》



10月3日に行われた学教研標茶大会は、皆様のご協力のもと来賓・関係者も含め、300名を超える方々に参加していただき、盛会裏に終えることができました。標茶町教育研究所並びに標茶町各校の皆様におかれましては、精力的に準備に取り組んでいただき、ありがとうございました。

各部会では、短い時間ではありましたが、町村の枠を超え、活発な研究協議がなされたことと拝察します。この学教研で学んだことをこれからの教育活動にいかしていただけたら主催者側といたしましても幸いです。

下に次年度の浜中大会の運営につなげる本大会の《成果と課題》について参加者からの声とともにいくつか紹介します。

成果

- ・サテライト会場を設けたことで移動時間が短縮され、事後研の時間が多く確保できた。
 - 各会場が離れていることから移動時間を短縮するため、サテライト会場を設け開会式を2カ所で行う試みはとても好評でした。各町村の設備等の問題があるかと思いますが、継続できるよう提案していきます。
- ・討議の柱に沿った授業が展開されており、協議しやすい。
 - 研究主題に沿った討議の柱を設定して授業公開や研究協議を行うことは、参加者が明確な視点を持って授業を参観でき、充実した事後研へと繋がりました。
- ・小・中の壁を越えて議論ができる貴重な場である。
 - 小中連携が叫ばれる中、学教研という場は小中の壁を越えてお互いの授業を見合い議論ができる貴重な場です。今後も日々の教育活動につながるような運営をしていきたいと思っております。

課題

- ・生徒数や教員数が減ってきており、学教研自体の在り方を見直すべきではないか。
 - 生徒数や教員数の減少は問題視されており、その中で従来通りの学教研を継続させていくことが厳しくなっているのは事実です。時代や状況に合わせて、無理の無い、かつ有益な学教研の在り方を各町村と相談しながら模索していきます。
- ・会場が狭く他のグループの声が聞き取りづらく、協議がしづらかった。(特支)
 - 使用会場の収容人数に限界があり、参加人数の多い部会では協議のしづらさを感じる場面がありました。会場の使用方法の工夫や部会毎の人数の偏りが起きないように対策も必要かもしれません。開催町村研と釧研と打合せを密に行います。

この他にもたくさんのご意見をいただいております。学教研がさらに意義深いものになるように、所員一同鋭意努力してまいります。

次年度開催の浜中町の先生方におかれまして、実り多い浜中大会を迎えられるよう、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

浜中町教育研究所の研究

1. 研究主題「子どもの主体的な学びを引き出し『確かな学力』を育む授業の創造」
～「対話する力」を育みつながり合う授業づくりを通して～
2. 浜中町教育研究所の主な研究活動
 - (1) 研究大会～5月研究大会，6月研究大会，7月研究大会，9月研究大会，2月研究大会
5月大会・2月大会では全体研究集会及び部会，6月・7月・9月の大会では部会ごとの活動が行われています。各部会では，研究授業や指導案検討，実践交流，実技講習会など活発な活動が行われています。
 - (2) 特別委員会～へき地複式教育特別委員会，進路指導特別委員会，ICT教育特別委員会，郷土資料編集特別委員会が活動しています。
 - (3) 部会構成～今年度は13部会での活動となりました。浜中町の目指す子どもを基にしてテーマを決め，その実現のために活動を行っています。以下は今年度の活動計画です。

部 会	テ ー マ	部 長
国 語	「必要感・有用感を生み出す国語科授業の創造」 ～目標・単元計画と有機的に結びつく言語活動の工夫を通して～	橋 拓朗（霧多布中）
社 会	「主体的・対話的な活動をうながす授業づくりを通して」	小野 幹男（浜中中）
算数・数学	「一人一人の意欲を引き出し、『生きる力』を育む授業を目指して」 ～知識・技能の習得・活用をうながす授業づくりを通して～	大畠 慎平（散布中）
理 科	「一人ひとりの意欲を引き出し確かな学力を育む授業を目指して」 ～対話する力を育みつながり合う授業づくりを通して～	高西 勇希（霧多布中）
音 楽	「一人一人の意欲を引き出し，豊かな表現力を育む授業を目指して」 ～主体的・対話的な活動の充実をうながす授業づくりをめざして～	古谷 弘美（霧多布中）
図工・美術	「子どもの主体的な表現を引き出し『豊かな創造力』を育む授業づくり」	鹿尻島 潔（散布中）
保健体育	「運動の楽しさを実感し，夢中になれる子どもの育成」	葛西 広大（茶内中）
外国語活動・英語	「言語活動を通して，対話力を育む授業づくり」	大寺 善仁（散布中）
総 合	「一人一人の意欲を引き出し，『確かな学力』を育む総合的な学習の時間の充実を目指して」	小林 裕子（茶内小）
道 徳	「生きる力を育む道徳教育の充実を目指して」	清水 敬太（茶内小）
養 護	「生きる力を育む教科外指導の充実を目指して」 ～生活習慣の改善に向けた保健指導～	高橋 夢奈（霧多布小）
事 務	「日常実践の交流をとおして学校事務の改善と効率化を考える」	迫田 徹朗（浜中小）
特別支援	「児童・生徒の主体的な学びを引き出し『生きる力』を育む授業の創造」 ～学びの連続性を考慮し，一人ひとりに応じた指導を通して～	舟山 尚（茶内中）

3. 次年度釧路管内学校教育研究大会浜中大会の予定 ・開催期日：令和2年10月1日（木）

活用しよう!

釧研紀要



● 研究部のページ

(4) 研究の実践
① 学習指導案(本時の展開)の工夫

<p>① 協定して1人1ボールを準備することが出来る。</p> <p>② ゲームごとを2組とし、四角パスを準備することが出来る。</p> <p>③ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。</p>	<p>④ 協定して1人1ボールを準備することが出来る。</p> <p>⑤ ゲームごとを2組とし、四角パスを準備することが出来る。</p> <p>⑥ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。</p>	<p>⑦ 協定して1人1ボールを準備することが出来る。</p> <p>⑧ ゲームごとを2組とし、四角パスを準備することが出来る。</p> <p>⑨ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。</p>
---	---	---

生徒の学習活動を下位目標として記述する。

【学習課題】「古典マッシュアップゲーム」でゲームの目標達成をクリアしよう!

④ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。

⑤ ゲームごとを2組とし、四角パスを準備することが出来る。

⑥ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。

⑦ 協定して1人1ボールを準備することが出来る。

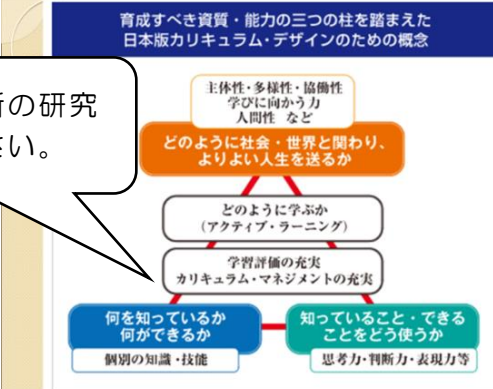
⑧ ゲームごとを2組とし、四角パスを準備することが出来る。

⑨ 各チームの記録を採集し、1つの1対1のボールを各組に渡すことが出来る。

各町村研究所の研究理論が紹介されています。

研究部のページでは、主に釧路教育研究所で研究を進めている内容や授業実践について掲載しています。また、各町村研究所や釧路教育研究所の研究協力校での実践についても紹介しています。各学校で取り組まれる校内研修、研究授業などを行う際の参考にご利用ください。

釧路教育研究所の研究もご活用ください。



● 事業部のページ

講座10 ミニ講座2 実践から学ぶ授業づくり(学習指導案・道徳教育)

● 実践の概要

【講座の概要】

【参加者の感想】

国語部会

● 授業単元名、学習課題

● 学習のねらい

● 授業の展開

● 授業の振り返り

● 授業の振り返り

● 授業の振り返り

事業部のページでは、学教研や釧研講座など釧路教育研究所で運営した研修等について掲載しています。ご都合で参加できなかった研修講座等につきましても、こちらで概要を確認することができます。

今年度実施した講座の紹介や学教研の記録も掲載しています。

事務局通信

■季節外れの暖気が訪れ、雪解けが一気に進んだかと思えば、翌週には大雪と天候の変化や気温の寒暖差に体調を気にかけられている方も多いのではないのでしょうか？しかし、少しずつではありますが日が差す時間も長くなり、徐々に春の訪れを感じる今日この頃でもあります。各校では年度末にむけて充実した毎日をお過ごしのこととと思いますが、まだまだ、インフルエンザなどの流行が心配されます。子どもも先生方も予防に努めて健康に過ごされまことをお祈りいたします。■さて、釧研では新年度の準備と並行して今年度の活動をまとめた釧研紀要を作成中です。年度末には発行できるように作業を進めております。釧研講座、学教研の概要、釧研や各町村の研究についても掲載されています。お手元に届いた際には、ぜひご覧ください。(事務局)

★釧路教育研究所★ 所報298号

発行日：令和2年2月

発行所：釧路教育研究所

発行者：水上俊司

URL
<http://senken.net/>

E-mail
info@senken.net

アクセス用QRコード